

## 4 学部・研究科教育活動報告

### 4.1 PBL(Project Based Learning)

#### 【PBL 概要】

PBL (Project Based Learning) は、学生の自主的研究活動・創造活動を促進するために、学生が主体となる研究プロジェクトを支援するためのプログラムである。PBL の目的はチームでプロジェクトを実現するために作業分担を行い、問題を解決していく経験をさせることである。また、問題発見能力を養い、困難を克服する執着心を養うとともに成功体験をさせることで、教育的効果を求める。このため、課題は教員が与えるものではなく、学生自身で課題を設定しなければならない。

PBL の応募要件としては、3 名以上でチームを構成し、プロジェクト概要、必要な経費そしてプロジェクトメンバーのそれぞれの役割分担を明確にした計画書を提出することである。このときのプロジェクト代表学生は、ソフトウェア情報学部またはソフトウェア情報学研究科の学生に限定する。プロジェクトメンバーについては、岩手県立大学の学生であれば、学部等は不問である。ただし、当該学生の指導教員の許可を得る必要がある。なお、一人の学生が、代表となれるプロジェクトは、1 件のみである。プロジェクトの代表者と副代表者については、PBL の成果をもって、後述する大学院修了要件である SPA (Software Practice Approach) として認定される。

PBL におけるプロジェクトの実施にあたり、各プロジェクトに在庫物品の貸与と、最高 5 万円までの物品の購入を認める。なお物品については、基本的には貸し出す形をとり、消耗品を除き、プロジェクト終了後に返却を求める。

#### 【申請課題】




平成 26 年度の PBL 申請プロジェクトは、以下の 12 件であった。

PBL 番号	氏名	服代表者	タイトル	人数
PBL2014-1	中野 裕貴	渡邊 泰史	地図情報を用いた災害情報システムの構築	3
PBL2014-2	石井創一朗	NOR ATHIYAH BINTI ABDULLAH	SNS を用いた復興ウォッチャーサービスの構築	3
PBL2014-3	宇部 雅彦	村瀬 昂	コーディネート相談システムにおける洋服の重ね着表現機能の拡張	3
PBL2014-4	仁多見 遼	湊 崇文	Kinect を用いた弓道における射型支援システム	4
PBL2014-5	千葉慎也	佐々木優太	グループにおける発表の進行を支援するアプリケーションの開発	4
PBL2014-6	手塚 祐樹	咲山 拓哉	SNS の投稿情報を用いた観光需要についての分析	4
PBL2014-7	鎌田恵介	坂松春香	複数のセンサを用いた感情測定手法とそれに基づく MMD によるフィードバックインタフェースの提案	5
PBL2014-8	藤原貴正	高橋啓太	複数の認証手法を用いたフェイク入りロック解除方式の提案	3

PBL2014-9	菊池 拓磨	千田 恭平	動作認識における不審動作検出システムの提案	5
PBL2014-10	橋本 拓観	高橋 仁基	自動車運転中の音声対話システム	5
PBL2014-11	仙道 航	杉山 暢彦	大きなコミュニティ内における新たなコミュニティ形成とイベント開催の支援	3
PBL2014-12	井上 裕之	古舘 昌伸	ご当地検定における学習環境と知識収集アプリケーションの開発	7

### 【成果発表会】

PBL として取り組んだ内容を学外者に向けて公開し、説明することを通して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上をはかるために成果発表会を設けている。ここで、学外者からの評価や意見を受けることで、多様な観点を知り、より広い視野を学ぶことができる。

日時	平成 27 年 3 月 5 日 13:00 から 16:30
会場	システム実習室 1, ソフト B 棟 201, 202, 203 ゼミ室
発表方法	全員を集めてのショートプレゼンテーション後に、プロジェクトごとに分かれてブースを設置してのポスターセッションを行った。
発表数	12 件
プログラム	13:00 開会式 挨拶：渡邊研究科長 13:05 ショートプレゼンテーション 各プロジェクトが 2 分程度で順番にプロジェクトの紹介を行った 13:40 ポスターセッション プロジェクトごとに分かれて、詳しい研究内容やデモなどを行った 16:00 表彰式・閉会
当日の様子	   <p style="text-align: center;">ショートプレゼンテーション</p> <p style="text-align: center;">ポスターセッション</p>
参加者	合計 30 名で、教職員 10 名、学生 20 名。

### 【受賞プロジェクト】

- ・優秀賞：PBL2014-7
- ・優秀賞：PBL2014-8

(投票は外部参加者と教員が研究内容やプレゼンテーションを総合的に判断し、上位 2 プロジェクトに投票して集計して優秀賞を授与した。)

## 4.2 SPA (Software Practice Approach)

### 【概要】

SPA は、大学院生への研究の進め方に関する教育の一つで、大学と実用現場が協力することによって、より質の高い実践面を強化した教育の実現、および社会とのつながりを学生に経験させることを目指すものである。それによって、教育面・研究面それぞれにおける効果を狙っている。

教育面における SPA による効果は、以下のようなものを期待している。

- 高い適用能力を持つ学生の育成
- 幅広い知見を持つ学生の教育
- 理論だけでなく、実践面も見越した考えができる学生の育成

研究面における SPA は、大学院生への現場主義研究の入門であり、実用研究への第 1 段階と位置づけている。現場には、机上の理論では解決できない問題があること、本来ソフトウェア技術は応用技術であり、それゆえに現場にこそ常に新しい題材があることを体験し、その経験を以後の研究活動に反映することを目指す。これにより、実践面を強化したより実用的な研究を行うことを期待している。

SPA の実施形態として、

- 実用現場から研究課題／事例を与えてもらい、それに一定期間で取り組む。
- 実用現場の研究・開発に一定期間、参加する。
- 大学で選んだ課題とその研究成果を実用現場で一定期間、試用する。

という形式がある。

学生は研究科教務委員会へ計画書を提出し、実施終了時にその実施報告書を提出する。また、SPA は大学院の修了要件の一つとして設定されており、SPA は PBL の成果を学外で発表することで置き換え可能としている。

### 【SPA 報告書】

平成 26 年度の SPA 実施報告書として、計 13 課題が提出された。

## 4.3 オープンキャンパス

### 【概要】

オープンキャンパスは、高等学校生徒および進路指導担当教員を対象として、建学の理念、教育・研究内容及び平成27年度選抜概要の周知を行い、本学への関心を高め、本学志望の動機づけを行うことにより、受験生の一層の確保を図ることを目的として取り組んでいる。平成24年度から年2回実施体制となった。

本年度は、前年度の運用面での反省を踏まえた上で、昨年度に引き続き、研究内容を周知するだけでなく、高校生が本学在學生と直に話す機会を増やすことにより、本学に対する関心をより一層高めることを目標とした。

### 【開催日程】

#### ・夏オープンキャンパス

開催日：平成26年7月6日（日）9：00～15：00

#### ・大学祭オープンキャンパス

開催日：平成26年10月25日（土）～26日（日） 大学祭と共同開催

### 【夏オープンキャンパス実施内容】

オープンキャンパス全体のスケジュールを表1に示す。例年通りの流れで行われたが、キャンパス・アテンダントによる大学生生活紹介が行われるなど、大学自体の紹介についてもより充実した構成となった。

表1 全学スケジュール

時刻&場所	タイムテーブル			
	共通講義棟			各学部棟
9:30	受付開始			
10:00 ～ 10:10	<b>■開会</b> 学長メッセージ・イベント紹介			
10:10 ～ 10:50	<b>■学部説明会</b>	<b>■大学紹介</b> ・大学説明 ・キャンパス・アテンダントによる大学生生活紹介	<b>■研究紹介</b> <b>■地域連携</b> 活動報告	<b>■学部企画イベント</b> ・入試相談会 ・体験学習 ・学生による相談コーナー ・各教育系の説明、資格の説明 ・研究紹介 ・大学生生活の紹介 ・授業、研究の紹介展示 ・クイズイベント ・実験、実習室の見学 など
11:00 ～ 11:50	<b>■模擬講義</b> <b>■個別説明会</b> （富古短期大学部のみ）	<b>■保護者説明会</b>		
13:10 ～ 15:00		<b>■保護者相談</b> コーナー		<div style="border: 1px solid black; background-color: #FFD700; padding: 5px; text-align: center;"> <b>★学部の魅力を体験するなら こちら！！</b> </div>

以下に学部企画イベントについてまとめる。

#### (1) 学部説明会（10:10～10:50 40分）

共通講義棟101教室および108教室において、学部長・学科長挨拶、学部についての説明、入試についての説明を行った。資料として、ソフトウェア情報学部パンフレット、マンガ広報、研究紹介Mapを配布した。2つの会場はほぼ満席となり、熱心に耳を傾ける高校生の様子がみられた。

## (2) 模擬授業 (11:00~11:50 50分)

模擬授業は表 2 の要領で実施された。内容的に身近な話題であるため、参加者は関心を持って聴いていたようである。また、大学の授業を身近に感じている様子も窺えた。すべての会場でほぼ満席となり、大盛況であった。

表 2 模擬授業内容

テーマ	担当教員	場所
人工知能って面白い！	馬淵先生	108 教室
Webの世界	児玉先生	109 教室
ヒト・センシング技術を活用した ヒューマンインタフェース開発前線	プリマ先生	208 教室

## (3) 入試&amp;学生生活相談 - Welcome to Softy World (10:00~15:00 5時間)

入試相談では学生広報チームが積極的に高校生に接し、学生生活や先輩からのアドバイスをを行い好評であった。入試、授業、生活などに関してパネルを 15 枚程度制作し、パネルを使った説明をすることにより、短時間で多数来訪する高校生への効率的で効果的な対応ができるようになった。

また、来場者にリラックスした雰囲気でもらうためにBGMを流すことや、茶菓を振る舞いながら話をするようにするなどの工夫を行った結果、70名以上の高校生・保護者の相談があり、多くの来場者で賑わった。来場者を対象としたアンケート結果からも、在籍している学生と相談できることで、関心が入学試験そのものから在学後の生活や学習へと変化し、ソフトウェア情報学部についてより深く知ってもらうきっかけや関心の喚起が実現できたと考えられる。

## (4) 研究紹介 (11:00~14:00 3時間)

研究紹介では、右図のように学部棟にて研究紹介を行った。



図 1 学部企画の案内図

## 【大学祭オープンキャンパス実施内容】

大学祭オープンキャンパスは全学実施3年目となった。本年度の学部企画は、研究内容紹介、体験学習、学生生活および入試相談会を昨年度に引き続いて実施した。各企画とも例年以上の来場者があり、入試相談についても盛況であった。本年度はTVの生中継でも本学部の様子が紹介され、広く参加者へのアピールを行った。以下に学部企画イベントについてまとめる。

## (1) 研究内容

紹介ソフトウェア情報学部で行われている研究内容についての理解を広めるため、ソフトウェア情報学部 A 棟 2 階の廊下で、講座ごとのポスターや PowerPoint、デモを用いた研究内容紹介を行った。各講座とも学生を配置し、訪問者に対してパネルセッション形式で説明する方法を採用した。

## (2) 体験学習

ソフトウェア情報学部における教育について理解を広めるため、事前登録（含むオンライン登録）と当日受付で集まった参加者に対し、体験学習の場を設けた。体験学習内容を表3に示す。

表3 体験学習内容

日付	コース名	研究室	タイトル・概要	場所
26日	メディアシステム	柴田研	簡単操作でプログラミング	システム演習室 1
			お気に入りのキャラクターを動かすプログラム作りを通して、プログラミングの楽しさを学びます。	
	知能システム	藤田研	コンピュータがあなたの好みをわかってくれる!?!入門・意思決定支援	マルチメディア ラボ
			たとえば、レストランで料理を選ぶというように、複数の候補から一つの候補を選ぶということはよくあります。そのときに、候補に何らかの方法で順位を付けています。その人の順位をつける考えをコンピュータに持ち込めば、コンピュータがあなたの決定を助けてくれるようになります。本体験学習では、そんな考えの基本を簡単な問題を通して学びます。コンピュータは利用せず、紙で行いますので、コンピュータがわからない!!って方も気楽に参加してください。	

### (3) 学生生活および入試相談会

学生広報チームの学生と入試広報委員会の教員で高校生・中学生に対し学生生活や入試相談を行った。今年度は全学での合同開催となり、大教室で学部ごとにパーティションで区切った開催となった。ここでも従来型のブースでの個別相談形式ではなくパネルを使った独自の方式を展開することで、他学部に比べても待ち時間が少ない一方で説明時間も長くすることができ、参加者も満足していたようだった。2日間で計36名以上の参加者が来場した。

## 【オープンキャンパス風景】



## 【まとめ】

両オープンキャンパスでは、幅広い年齢層の来客があり、ソフトウェア情報学部の広報が効果的に行えたと考えられる。特に、学生自らがやっている研究内容を分かりやすく説明しているため、今後大学進学を目指す高校生等の若い世代にソフトウェア情報学部に対する興味を持たせることができていると考えられる。また、学生広報チームが高校生目線で学生生活や入試相談に応じたのが非常に好評であった。さらに、パネルを作成してこれを活用した紹介・相談形式にすることで、短時間で多数が来訪する状況でも少人数で効率的・効果的な対応ができるようになったことは非常に大きな収穫であると考えられる。今後も随時情報を更新することや、より豊富なコンテンツとしていくことで、改善が期待できる。

大学祭オープンキャンパスにおける体験学習では高校生に限らず幅広い参加者でも楽しめるような内容の企画とした。今後も想定する対象者や内容の検討・見直しを通じて、改善していきたい。3年目となった大学祭オープンキャンパスは全学部での実施となった。企画内容や運用方法については調整作業も増えて課題も見られたが、今後の改善が期待される。

## 4.4 就職活動支援と実績・インターンシップ実績

### 【概要】

学生の就職活動に対する支援として、オリエンテーションでの就職ガイダンス、理工系学生向け就職セミナー、インターンシップ説明会・体験報告会、業界研究セミナー、就職キックオフ、キャリア形成支援セミナー、学生の就職先の発掘を目的とした教員の企業訪問等を実施するとともに、就職フォーラムを開催し、企業と学生との交流を図っている。平成26年度は、インターンシップの参加者は58名であった。また、平成26年度の就職率は97.2%、就職内定者の地域別内訳は首都圏54.3%、東北6県（岩手県を除く）0.97%、岩手県27.1%、その他0.87%であった。

### 【実施内容】

平成26年度は、学生の就職活動に対して以下のような支援活動を実施した。

- 4月 7～10日 オリエンテーションでの就職ガイダンス
- 7月23日（水） インターンシップ事前研修会
- 6月～8月 インターンシップの実施
- 10月 8日（水） 卒業後の進路を考えるガイダンス
- 10月15日（水） インターンシップ成果報告会
- 12月 3日（水） 企業見学（㈱カガヤ、滝沢市 IPU イノベーションセンター）
- 3月 9日（月） 首都圏企業就職フォーラム
- 4月 2日（木） いわて情報産業就職フォーラム

### 【インターンシップ】

#### (1) インターンシップ参加申込み説明会

日時：平成26年6月4日（水）14：40～16：10

場所：講堂

内容：インターンシップ応募から参加までの手続き・流れについて

#### (2) インターンシップ事前研修会

日時：平成26年7月23日（水）14：40～16：10

場所：共通講義棟201

内容：インターンシップの学習効果を高めるために役立つ知識や視点を具体的に学ぶ

#### (3) インターンシップ成果報告会

日時：平成26年10月15日（水）14：40～17：50

場所：共通講義棟201

内容：学生によるインターンシップ成果報告会

参加者：4学部計53名（ソフト学生27名）発表者：1名（ソフトウェア情報学部3年生）

#### (4) インターンシップ参加状況（三大学連携・IPU就業サポーター制度）

希望者数24名、決定者数24名、決定率100%

個別企業インターンシップ参加者数 34名

受講者合計58名（うち2年生12名）

### 【首都圏企業就職フォーラム】

日時：平成27年3月9日（月）



場所：岩手県民情報交流センターアイーナ 8F 804 会議室

参加者：企業 22 社 (30 名)、学生 (3 年生・大学院 1 年生) 96 名

交流会 (コーヒーコーナー) 企業 18 社 (25 名)、学生 (3 年生・大学院 1 年生) 45 名

プログラム：

**【企業説明会】**

12：00～12：50 参加企業受付

12：50～13：00 事務連絡

13：00～15：30 企業説明会

参加企業

(株)インターネットイニシアティブ、SCC(株)、SCSK(株)、NECソリューションイノベータ(株)、(株)NTTアドバンステクノロジー(株)、(株)NTT-ME、NRIシステムテクノ(株)、京セラコミュニケーションシステム(株)、ユニカミノルタビジネスソリューションズ(株)、東芝情報システム(株)、(株)トヨタコミュニケーションシステム、日商エレクトロニクス(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立システムズ、(株)日立製作所、(株)富士通エフサス、(株)富士通システムズ・イースト、(株)富士通ビー・エス・シー、(株)富士通ミッションクリティカルシステムズ、三菱電機インフォメーションシステムズ(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、ユニアデックス(株)

**【交流会】** 16：00～17：30 コーヒーコーナー アイーナ 8F 803

**【いわて情報産業就職フォーラム】**

日時：平成 27 年 4 月 2 日 (木)

場所：岩手県民情報交流センターアイーナ 8F 804 会議室

共催：岩手県立大学ソフトウェア情報学部、岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科

岩手県情報サービス産業協会、

参加者：企業 25 社 (53 名)、学生 48 名 交流会 98 名 (うち学生 16 名)

プログラム：

**【企業説明会】**

12：30～13：20 受付

13：30～16：50 企業説明会

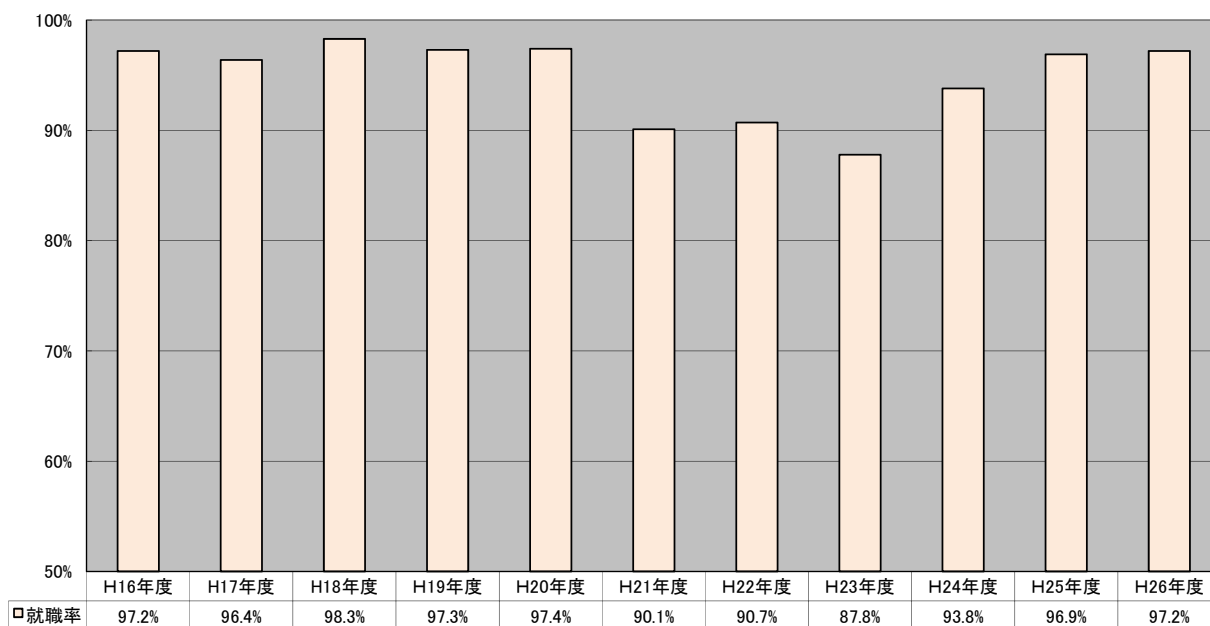
参加企業

(株)アイシーエス、アイシン・コムクルーズ(株)、(株)アイディーエス、(株)アークネット、(株)イーアールアイ、(株)岩手情報システム、岩手NIC(株)、エクナ(株)、(株)SCSKニアショアシステムズ、(株)オレンジテクノロジーズ、(株)グレープシステム、(株)クーシー、(株)システムベース、(株)DNP情報システム、東京コンピュータサービス(株)、東杜シーテック(株)、(株)東北システムズ・サポート、(株)ネクスト、(株)ノーザンシステムサービス、(株)日立ソリューションズ東日本、ビステック(株)、(株)ぴーぷる、(株)ミクニ、(株)リードコナン、(株)ワイズマン

**【交流会】** 17：20～18：50 交流会 (マリオス 20F 展望室スカイメトロ)

【就職率及び就職内定者数】

岩手県立大学ソフトウェア情報学部の就職率  
(H15～H26年度)H27.3.31時点



岩手県立大学ソフトウェア情報学部の就職者数  
(H15～H26年度)H27.3.31時点

(人)

